使用説明書

各部の名称

【入門編】
撮影しましょう

【初級編】
場面に合わせて
撮ってみましょう

【中級編】
こんな撮影もできます

知っておくと便利です

正しく安全にお使いいただくために

お買い上げありがとうございます。ご使用前に、この使用説明書をよくお読みください。
この使用説明書では、正しく安全に製品をお使いいただくために、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示を用いています。よく理解して正しく安全にお使いください。

この表示を無視した取り扱いをすると、人が死亡したり、重症を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視した取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意を促す内容があることを告げるものです。
（左図の場合は発熱注意）

⚠ 警告

- 指定された電池以外は使わないでください。
- 電池の極性（＋／－）を逆に入れないでください。
- 電池を火中へ投入したり、充電、ショート、分解、加熱をしないでください。
- 新しい電池と古い電池、メーカーや種類の異なる電池を混ぜて使用しないでください。

電池の液漏れ・発熱・破裂の恐れがあります。

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁してください。
他の金属と接触すると発熱・破裂・発火の恐れがあります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄するかリサイクルしてください。

⚠ 警告

製品および電池や付属品を、幼児･子供の手の届く範囲に放置しないでください。
幼児が電池を飲み込む等、事故の恐れがあります。万一飲み込んだ場合は、ただちに医師にご相談ください。

落下や損傷により内部が露出した場合は、すみやかに電池を抜き、使用を中止してください。
感電や火傷の恐れがあります。また内部に手を触れないでください。

分解しないでください。
修理や分解が必要な場合は、当社サービスセンター･サービスステーションにご依頼ください。内部の高圧回路に触れると、感電の恐れがあります。

万一、使用中に高熱、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、すみやかに電池を抜き、使用を中止してください。
放置すると火災や火傷の原因となります。

ファインダーを通して直接太陽を見ないでください。
失明の恐れがあります。

⚠ 注意

直射日光の当たる場所に放置しないでください。
太陽光が近くのものに結像すると、火災の原因となります。やむを得ず直射日光下に置く場合は、レンズキャップを取り付けてください。

目次

各部の名称

カメラボディ 4
ボディ表示部 6
ファインダー表示部 7
撮影早分かり 8

撮影しましょう【入門編】

ストラップの取り付け方 11
電池を入れます 12
電池容量の確認 13
レンズの取り付け方／取り外し方 14
シャッターボタンの半押し／カメラの構え方 15
フィルムの入れ方 16
おまかせＰモード（全自動）で撮影しましょう 18
ピント合わせ
フォーカス表示 20
オートフォーカスの苦手な被写体 21
写したいものが画面中央にないときは（フォーカスロック）........ 22
フラッシュ撮影
フラッシュ表示 23
フラッシュ光の届く範囲 23
フラッシュモードの選択 24
自動発光（フラッシュは必要時には自動的に発光します）........ 24
赤目軽減付き自動発光（目が赤く写るのを軽減します）........ 25
強制発光（フラッシュは必ず発光します）........ 25
赤目軽減付き強制発光 26
発光禁止（フラッシュは発光しません）........ 26
内蔵フラッシュ使用時の注意 27
フィルムを取り出します 28
最後のコマまで撮影せずに途中で取り出したいときは 29

場面に合わせて撮ってみましょう【初級編】

撮影シーンセレクター 31
ポートレート 32
記念撮影・風景 33
クローズアップ 34
スポーツ 35
夜景ポートレート・夜景 36
セルフタイマー撮影 38
連続撮影 39
日付・時間を写し込むには 40
パノラマ撮影 43

こんな撮影もできます【中級編】

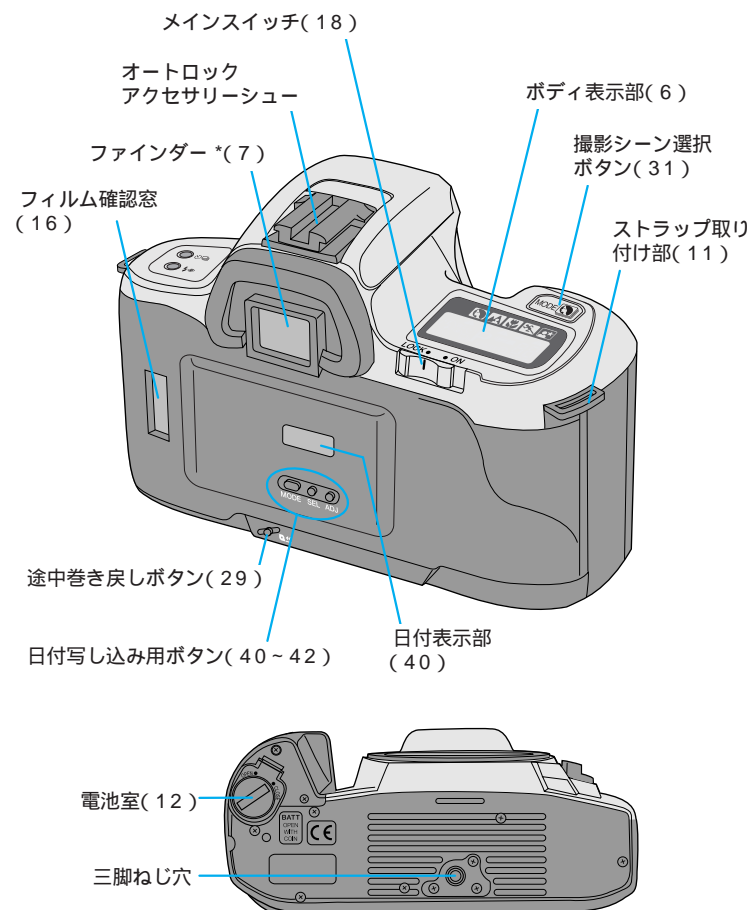
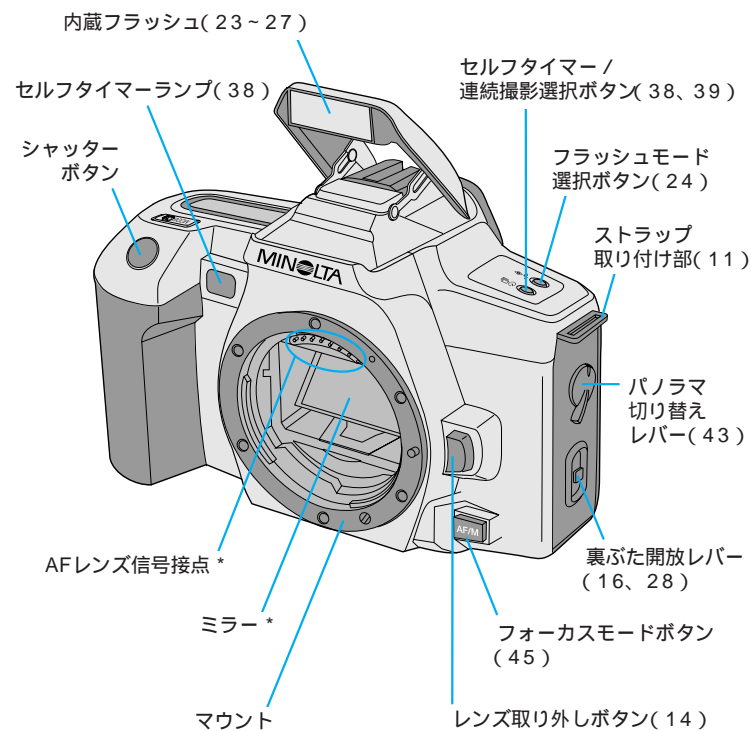
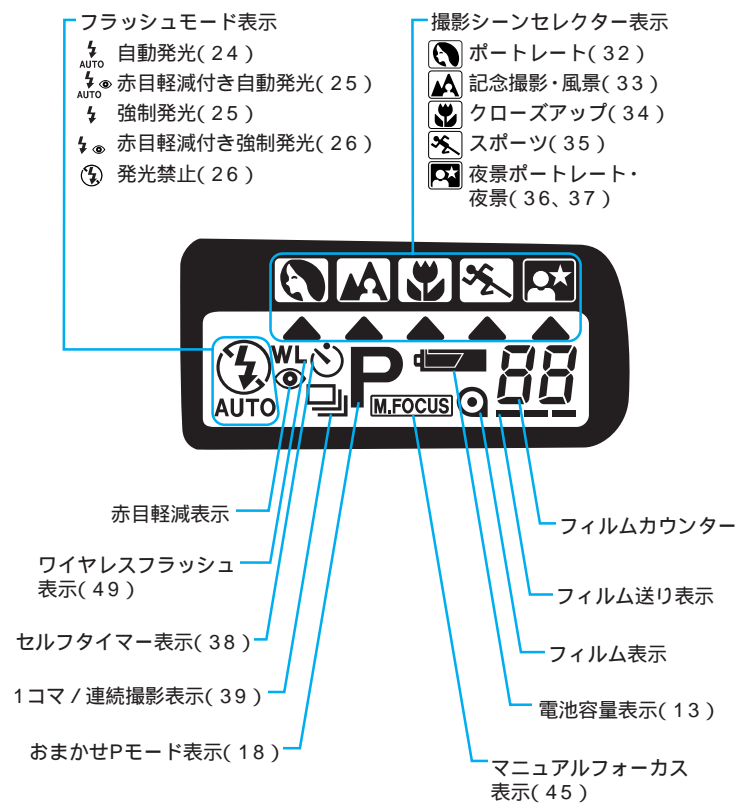
手動によるピント合わせ（マニュアルフォーカス）........ 45
ピント合わせのためにフラッシュが光ります（AF補助光）........ 46
AF補助光を発光させないようにするには 47
ワイヤレスフラッシュ撮影 48

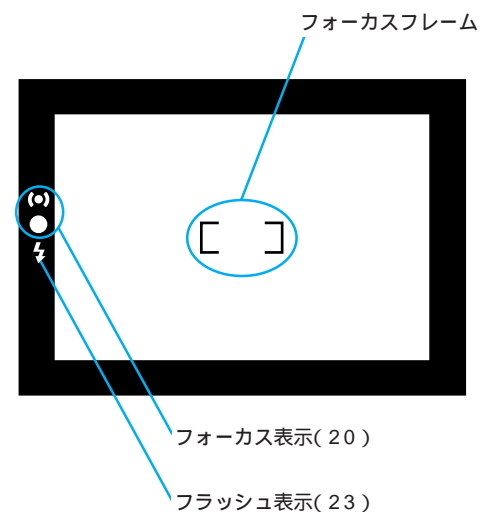
知っておくと便利です

このカメラと組み合わせて使えるアクセサリー 53
あれっ？と思ったときは 56
取り扱い上の注意 58
手入れと保管の仕方 59
主な性能 60

各部の名称

*印のついたところは、直接手で触れないでください。
(　) 内は参照ページです。

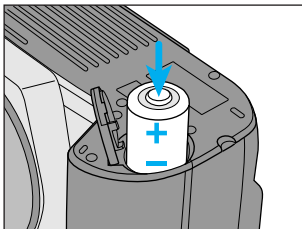
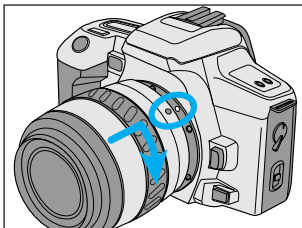
カメラボディ

ボディ表示部

※6、7ページの図では、説明のためすべての表示を点灯させています。

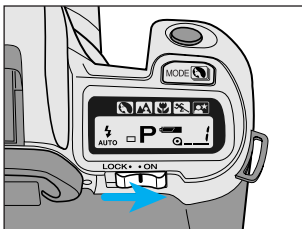
ファインダー表示部

フォーカス表示

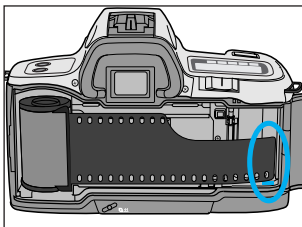
● 点灯	ピントが合っています。
(●) 点灯	ピントが合っています。被写体の動きに合わせてピント位置が変わります。
● 点滅	ピントが合わず、シャッターは切れません（20ページ参照）。

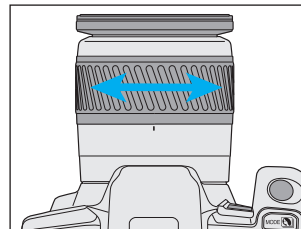
フラッシュ表示 ϟ

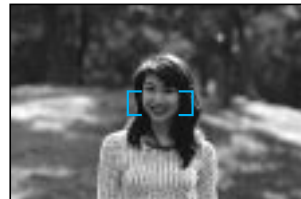
点灯	フラッシュの充電が完了しました。撮影できます。
すばやく点滅	フラッシュが充電中です。シャッターは切れません。
ゆっくり点滅（撮影後）	フラッシュ光が被写体に届きました。

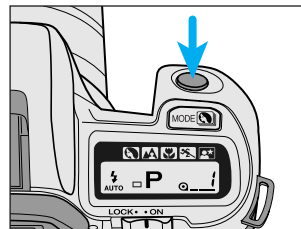
撮影早分かり（詳しくは本文をご覧ください）

1.電池を入れます。

2.レンズを取り付けます。

レンズとボディの2つの赤い点を合わせてはめ込み、カチッとロックがかかるまで時計方向に回します。

3.電源を入れます。

メインスイッチをONにします。

4.フィルムを入れます。

フィルムの先端を赤いマークに合わせ、裏ぶたを閉じます。

5.構図を決めます。

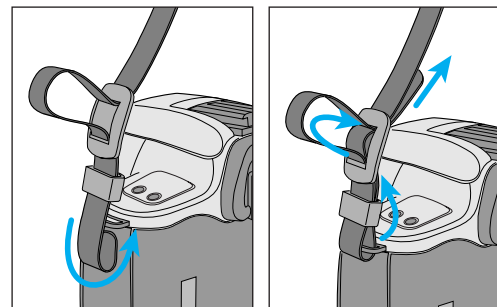
ズームリングを回して希望の大きさを決めます（ズームレンズ使用の場合）。

6.カメラを構えます。

写したいものが［　］に入るように、カメラを構えます。

7.撮影します。

シャッターボタンをゆっくり押し込んで撮影します。

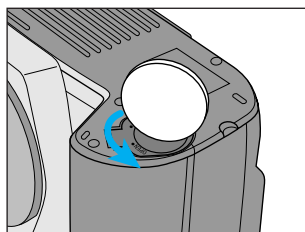
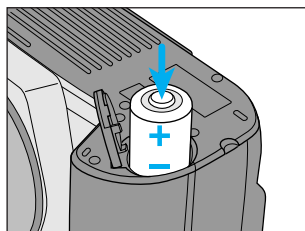
撮影しましょう
【入門編】

この章では、撮影前の準備と、最も簡単な撮影方法を説明しています。初めてカメラをご使用になる方でも、この章をお読みいただければ簡単に撮影できます。

ストラップの取り付け方

付属のストラップを取り付けると、持ち運びに便利です。

- ストラップの先が止め具の内側になるように取り付けます。
- 反対側も同様に取り付けてください。

電池を入れます

3Vリチウム電池CR2を2個使用します。

1. 電池室ふたの溝に硬貨を差し込み、「OPEN」の位置まで回します。

2. 電池室内の＋／−表示にしたがって電池を入れます。

3. ふたを閉め、硬貨を溝に差し込んで、「CLOSE」の位置まできっちり回します。

● ふたを開けたまま、ふたを下にしてカメラを置かないでください。ふたの破損の原因となります。

電池容量の確認

メインスイッチをLOCKからONにすると、自動的に電池の容量がチェックされ、ボディ表示部にその結果が表示されます。

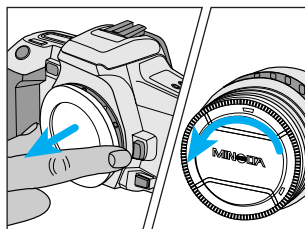
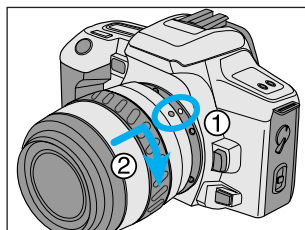
点灯（5秒間）
電池容量は十分です。

点滅
電池の交換をおすすめします。
この状態でも撮影はできます。

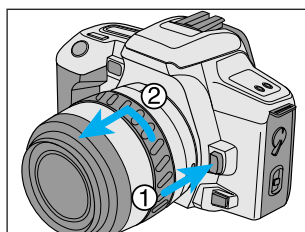
のみ点滅（他の表示すべて消灯）
新しい電池と交換してください。
シャッターは切れません。

● メインスイッチをONにしてもボディ表示部に何も表示されないときは、電池の向きを確認してください。
● お買い上げのときの電池は出荷時に入れたものなので、新品電池と比べて消耗が早くなることがあります。

レンズの取り付け方／取り外し方

取り付け方

1. カメラのボディキャップ、レンズの後キャップを外します。

2. レンズとカメラの2つの赤い点を合わせてはめ込み①、カチッと音がするまで時計方向に回します②。

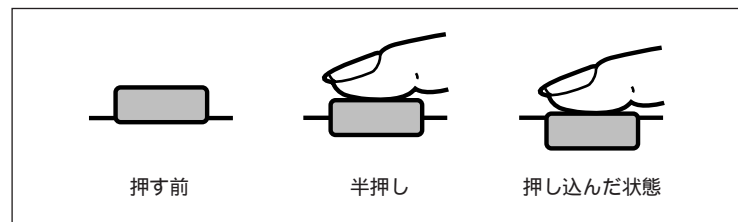
- レンズを取り付けるときは、レンズ取り外しボタンを押さないでください。
- レンズを斜めに差し込まないようにしてください。

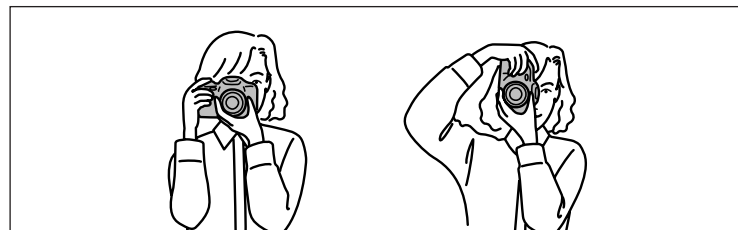
取り外し方

レンズ取り外しボタンを押しながら①、レンズを矢印の方向に止まるまで回して取り外します②。

- 取り外した後は、カメラ側・レンズ側ともキャップを付けて保管してください。

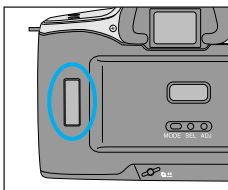
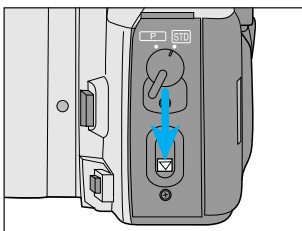
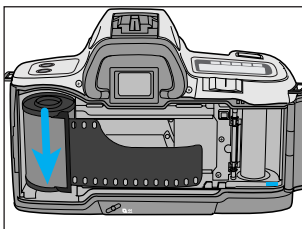
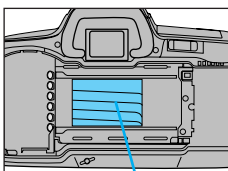
- カメラの内部、特にレンズ信号接点やミラーに触れたり傷をつけたりしないように、また内部に水滴・砂・ホコリが入らないように気を付けてください。
- フラッシュを使わずに撮影する場合は、画面外にある光が描写に影響するのを防ぐために、レンズフードの使用をおすすめします。レンズフードは、レンズの使用説明書または本書53ページをご覧の上、正しく装着してください。

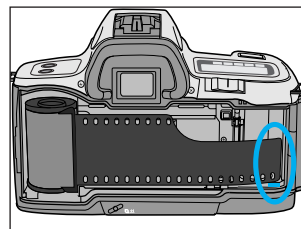
シャッターボタンの半押し／カメラの構え方

シャッターボタンの半押し

シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。この使用説明書ではここまで押すことを「半押し」と呼んでいます。

カメラの構え方

カメラが少しでも動くとぶれた写真になりますので、しっかりと構えて撮影してください。

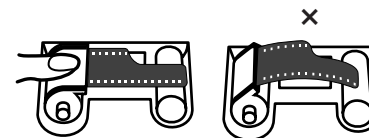
- 右手でカメラのグリップを持ち、脇を閉め、左手でレンズの下側をもって支えます。
- 片足を軽く踏み出し、上半身を安定させます。壁にもたれたり、机などに肘をついたりしても効果があります。
- 暗い場所でフラッシュを使用しないで撮影する場合や、望遠レンズを使う場合は、手ぶれが起こりやすくなります。このような場合は三脚などにカメラを固定して撮影してください。

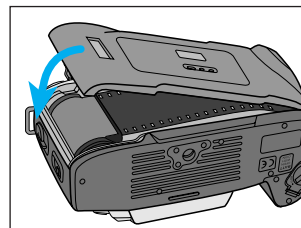
フィルムの入れ方

フィルム確認窓でカメラの中にフィルムが入っていないことを確認してから、裏ぶたを開けてください。

1. 裏ぶた開放レバーを押し下げて、裏ぶたを開けます。

2. フィルムを図のように入れます。

シャッター幕

シャッター幕は非常に薄く精巧に作られています。フィルムを入れる際に、手やフィルムの先が絶対に触れないように注意してください。

3. フィルムの先端を赤いマークの範囲内に合わせます

● フィルムが浮き上がらないようにパトローネ（フィルム容器）を押さえてください。

○

×

4. 裏ぶたを閉じます。

● フィルムが自動的に巻き上げられます。

● フィルムが正しく巻き上げられると ⊙---1 が表示されます。

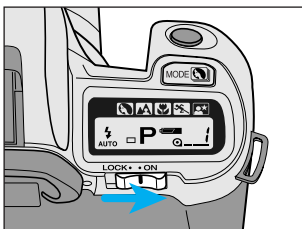
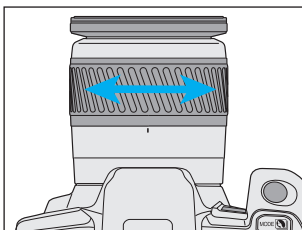
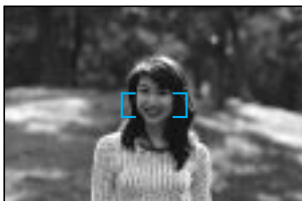
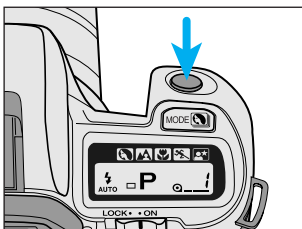
● メインスイッチがLOCKの状態でフィルムを入れた場合は、⊙---1 が5秒間表示された後、表示が消えます。

● フィルムが正しく送られていない場合、フィルムカウンターの --0 が点滅します。このときは、裏ぶたを開けてフィルムを取り出し、もう一度入れ直してください。

● フィルムの出し入れは、直射日光を避けて行ってください。

● ポラロイドインスタントリバーサルフィルムや赤外線フィルムは使用できません。

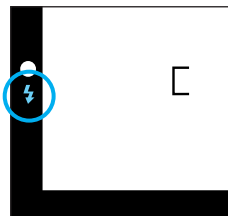
● フィルム感度は自動設定されます。

おまかせＰモード（全自動）で撮影しましょう

1.メインスイッチをONにします。

2.撮影したいものが希望の大きさになるように、レンズのズームリングを回します（ズームレンズ使用時のみ）。

3.ピントを合わせたいものがフォーカスフレーム［　］に入るようにカメラを構えます。

4.シャッターボタンを半押しします。

● フラッシュが上がり、ファインダー内に⚡が点灯したら、フラッシュが発光します（次ページ参照）。

5.シャッターボタンをゆっくり押し込んで撮影します。

シャッターボタンを半押ししたときにフラッシュが上がったら

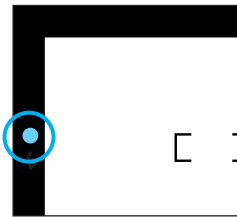
シャッターボタンを半押ししたときにフラッシュが上がったら、フラッシュが発光します。以下の手順に従ってください。

4.シャッターボタンを半押しします。

● フラッシュが上がり、充電が始まります。
● フラッシュの充電が完了したら、ファインダー内の⚡が点灯します。
● ⚡がすばやく点滅しているときはフラッシュが充電中です。点灯するのを待ってから撮影してください。

5.シャッターボタンを押して撮影します。

● 撮影後は、⚡が点滅して、フラッシュ光が被写体に届いたことをお知らせします。

ピント合わせ

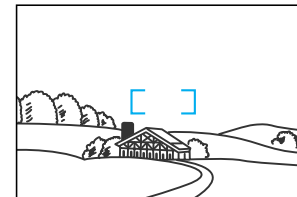
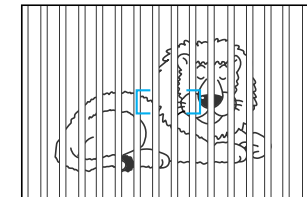
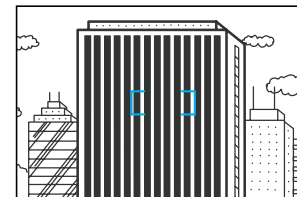
フォーカス表示

シャッターボタンを半押しすると、自動的にピントが合います。ファインダー内のフォーカス表示がピントの状態をお知らせします。

● 点灯	ピントが合っています。
(●) 点灯	ピントが合っています。被写体の動きに合わせてピント位置が変わります。
● 点滅	ピントが合わず、シャッターは切れません。

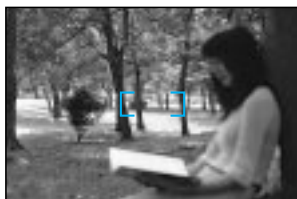
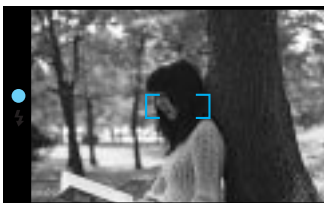
ファインダー内のフォーカス表示 ● が点滅したときは

オートフォーカスの苦手なもの（次ページ参照）、またはレンズの最短撮影距離よりも近いものを撮ろうとしていないか確認してください。

オートフォーカスの苦手な被写体

オートフォーカスのピント合わせは被写体のコントラスト（明暗差）を利用しています。したがって、以下のような被写体ではオートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。このような場合は、写したいものと同じ距離にある別のものにピントを合わせてから撮影してください（次ページ参照）。

青空や白壁など
コントラスト（明暗差）のないもの

おりの中の動物など、
［ ］の中に距離の異なる
ものが混じっているとき

ビルの外観など、
繰り返しパターンの
連続するもの

太陽のように明るい被写体や、
車のボディ、水面などきらきら
輝いているもの

写したいものが画面中央にないときは(フォーカスロック)

ピントを合わせたいものが[　]に入らないときに、そのまま撮影すると、[　]と重なっている背景にピントが合って人物がぼけた写真になってしまいます。このようにピントを合わせたいものが[　]の位置にないときは、次のようにしてピントを固定（フォーカスロック）して撮影してください。

1.ピントを合わせたいものにフォーカスフレーム[　]を合わせ、シャッターボタンを半押しします。

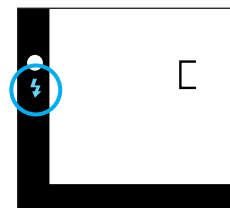
2.シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図にします。

3.シャッターボタンを押し込んで撮影します。

● フォーカス表示 ● が点灯しないとき（被写体が動いているときなど）は、ピントが固定されないので、フォーカスロック撮影はできません。

フラッシュ撮影

メインスイッチをONにすると、フラッシュは自動発光となります。自動発光では、シャッターボタンを半押しすると、フラッシュが必要な場合には内蔵フラッシュが自動的に上がり、フラッシュが発光します。最初からフラッシュが上がっている状態では、必要な場合には自動的に発光します。

フラッシュ表示

点灯	フラッシュの充電が完了しました。撮影できます。
すばやく点滅	フラッシュが充電中です。シャッターは切れません。
ゆっくり点滅（撮影後）	フラッシュ光が被写体に届きました。

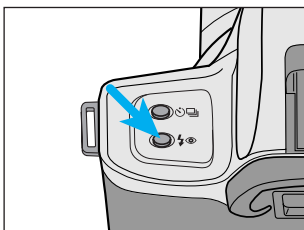
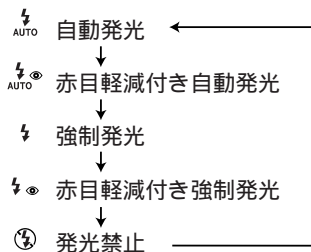
● 撮影後 ϟ が点滅しなかったときは、フラッシュ光が被写体に届いていません。下の表で、フラッシュ光の届く範囲を確認してください。

● フラッシュ撮影の手順については、19ページをご覧ください。

フラッシュ光の届く範囲

内蔵フラッシュの光が届く範囲には限度があります。以下の表を目安に、写したいものをこの範囲内に入れて撮影してください。

	使用レンズ			
	35-80mm F4-5.6 II		28-80mm F3.5-5.6 II	
フィルム感度	広角側	望遠側	広角側	望遠側
ISO 100	1.0 ～ 3.0 m	1.0 ～ 2.1 m	1.0 ～ 3.4 m	1.0 ～ 2.1 m
ISO 400	1.0 ～ 6.0 m	1.0 ～ 4.2 m	1.0 ～ 6.8 m	1.0 ～ 4.2 m

フラッシュモードの選択

このカメラには5つのフラッシュモードがあり、フラッシュモード選択ボタンを押すたびに次のように変わります。

- メインスイッチをONにしたときは、常に自動発光または赤目軽減付き自動発光になります。赤目軽減の有無は、最後に撮影したときの設定によります。
- 別売りのプログラムフラッシュを取り付けると、選べるモードが変わります。詳しくは55ページをご覧ください。

自動発光（フラッシュは必要時には自動的に発光します）

暗いところでの撮影などフラッシュが必要な場合には、シャッターボタンを半押しにすると内蔵フラッシュが自動的に上がり、フラッシュが発光します。最初からフラッシュが上がった状態では、必要な場合には自動的に発光します。

フラッシュモード選択ボタンを押して、ボディ表示部に AUTO を表示させます。

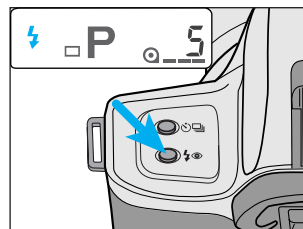
赤目軽減付き自動発光（目が赤く写るのを軽減します）

暗いところで人物を内蔵フラッシュで撮影すると、フラッシュの光が目の中で反射して、目が赤く写ることがあります。このモードを選ぶと、必要時にはフラッシュは自動的に発光しますが、撮影の直前に小光量のフラッシュが数回発光して目が赤く写る現象を和らげます。

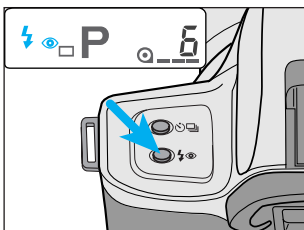
フラッシュモード選択ボタンを押して、ボディ表示部に AUTO を表示させます。

- フラッシュの本発光の前に数回、小光量の発光が行われます。人物撮影のときは、写される人にその旨を伝えておくことをおすすめします。

強制発光（フラッシュは必ず発光します）

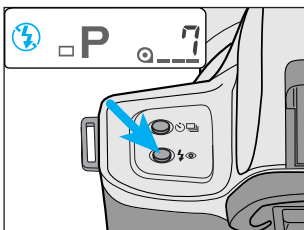
屋外で人物の顔に帽子の影ができているときや、蛍光灯のついた屋内で撮影するときなどは、フラッシュを発光させるとより美しい写真が撮れます。

フラッシュモード選択ボタンを押して、ボディ表示部に を表示させます。

赤目軽減付き強制発光

フラッシュは必ず発光します。また撮影直前には小光量のフラッシュが数回発光し、目が赤く写る現象を和らげます。

フラッシュモード選択ボタンを押して、ボディ表示部に⚡👁を表示させます。

● フラッシュの本発光の前に数回、小光量の発光が行われます。人物撮影のときは、写される人にその旨を伝えておくことをおすすめします。

発光禁止（フラッシュは発光しません）

美術館や博物館などフラッシュの使用が禁止されているときは、フラッシュを発光させずに撮影することができます。

フラッシュモード選択ボタンを押して、ボディ表示部に⚡を表示させます。

暗いところで発光禁止⚡を選んで撮影すると、シャッター速度が遅くなり、写真がぶれやすくなります。三脚を使って撮影してください。

内蔵フラッシュ使用時の注意

内蔵フラッシュで撮影する場合は、フラッシュ光がレンズでさえぎられて、写真の下部に影ができることがあります。以下の点に気を付けて撮影してください。

● 被写体から1m以上離れて撮影してください。

● レンズフードは取り外してください。

● 下記のレンズで内蔵フラッシュで撮影するときは、広角側でフラッシュ光がレンズでさえぎられることがありますので、フラッシュ撮影には別売りのプログラムフラッシュの使用をおすすめします。詳しくは裏表紙記載の当社サービスセンター・サービスステーションにお問い合わせください。

・AFズーム17-35mm F3.5G
・AFズーム20-35mm F3.5-4.5
・AFズーム28-70mm F2.8G
・AFズーム28-85mm F3.5-4.5
・AFズーム28-135mm F4-4.5
・AFズーム35-80mm F4-5.6 II

● 下記のレンズ使用時は、フラッシュ光がレンズでさえぎられるため、内蔵フラッシュによる撮影はできません。

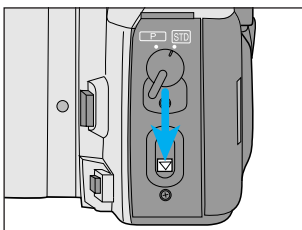
・AFアポテレ300mm F2.8（ハイスピードタイプを含む）
・AFアポテレ600mm F4（ハイスピードタイプを含む）

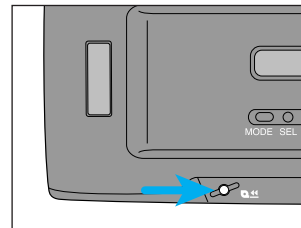
● このカメラの内蔵フラッシュは、焦点距離28mmの画角をカバーします。28mm未満の広角レンズで内蔵フラッシュ撮影をすると、写真の周辺部まで光が届かず、暗くなることがあります。

フィルムを取り出します

フィルムの最後のコマを撮影すると、自動的に巻き戻しが始まります。

1.巻き戻しの終了を待ちます。

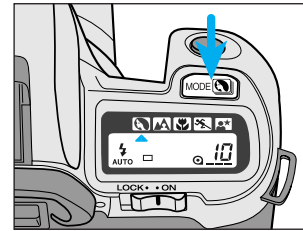
● フィルムカウンターが「0」になり、◉が点滅したら巻き戻しは終了です。

2.裏ぶた開放レバーを押し下げて裏ぶたを開け、フィルムを取り出します。

最後のコマまで撮影せずに途中で取り出したいときは

ボディ背面の途中巻き戻しボタンを軽く押します。

● 先のとがったもので強く押すと、故障の原因となります。

場面に合わせて撮ってみましょう【初級編】

撮影シーンセレクター

撮影したい場面を絵表示で選ぶだけで、その場面に合った写真を撮ることができます。

撮影シーン選択ボタンを押して、撮りたいシーンの絵表示の下に▲を表示させます。

ポートレート
人物が浮き立つように、背景が美しくぼけて写ります。

記念撮影・風景
どこで撮影したかがすぐ分かるように、手前の人物にも背景にもピントが合うように写ります。

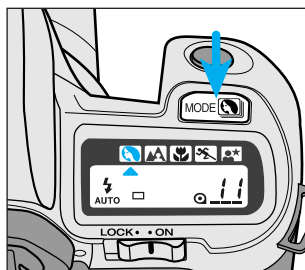
クローズアップ
小さな草花や昆虫などを撮影するときに使います。

スポーツ
速く動いているものでも、ぶれないように写ります。

夜景ポートレート・夜景
夜景がつぶれることなくきれいに写ります。

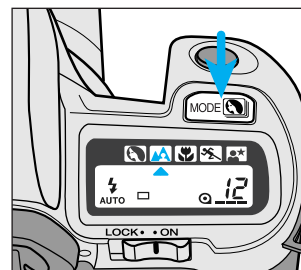
メインスイッチをONにしたときは、常におまかせPモードとなり、ボディ表示部にPが表示されます。

ポートレート

背景を程よくぼかし、人物をくっきりと立体的に引き立たせます。

撮影シーン選択ボタンを押して、の下に▲を表示させます。

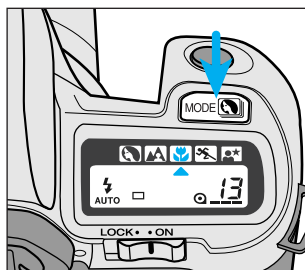
● 逆光のときや、顔に影ができているときは、フラッシュの使用をおすすめします。
● 背景をぼかすには、レンズの望遠側の方が効果があります。

記念撮影・風景

手前の人物も、思い出に残したい背景も、両方ともくっきりと写します。風景写真もシャープに写せます。

撮影シーン選択ボタンを押して、の下に▲を表示させます。

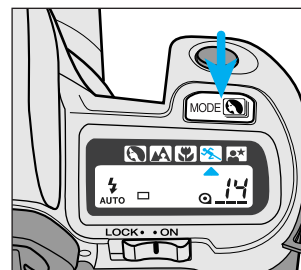
● 記念写真で逆光のときは、フラッシュの使用をおすすめします。風景のみ撮影するときは、フラッシュ光が届かないのでフラッシュは使用しないでください（フラッシュモード選択ボタンを押して発光禁止を選んでください）。内蔵フラッシュ光の届く範囲については23ページをご覧ください。
● 曇りの日などそれほど明るくないときは、手ぶれしやすいので、三脚の使用をおすすめします。
● 夜景を背景に記念撮影する場合は、夜景ポートレートモードをお使いください。
● 画面全体にピントを合わせるには、レンズの広角側の方が効果があります。

クローズアップ

小さい草花や昆虫などを近接撮影するときに使います。被写体全体をくっきりとシャープに写すことができます。

撮影シーン選択ボタンを押して、[クローズアップ]の下に▲を表示させます。

● 1m以内の距離では、写真の下部に影ができるため、内蔵フラッシュは使用しないでください（フラッシュモード選択ボタンを押して発光禁止[発光禁止]を選んでをください）。1m以内のフラッシュ撮影には、別売りのプログラムフラッシュの使用をおすすめします。
● クローズアップ撮影では手ぶれが目立ちやすくなるので、三脚の使用をおすすめします。
● レンズの最短撮影距離に注意して撮影してください。
● より大きく撮影するには、AFマクロレンズをおすすめします。

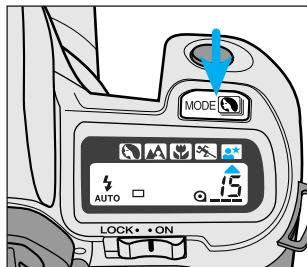
スポーツ

速く動いているものを速いシャッター速度でシャープに写し止めます。

撮影シーン選択ボタンを押して、[スポーツ]の下に▲を表示させます。

● なるべく高感度なフィルム（ISO400など）の使用をおすすめします。
● フラッシュ光が届かない場合は、フラッシュは使用しないでください（フラッシュモード選択ボタンを押して発光禁止[発光禁止]を選んでください）。内蔵フラッシュ光の届く範囲については23ページをご覧ください。
● 望遠レンズ使用時には、手ぶれしやすいので三脚の使用をおすすめします。
● このモードでは、被写体の動きに応じて常にピント位置が変わります。

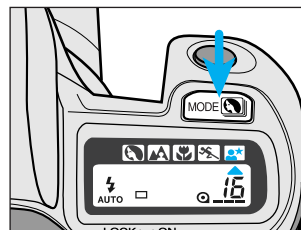
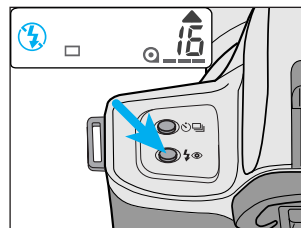
夜景ポートレート・夜景

夜景ポートレート撮影（人物＋夜景の場合）

夜景を背景にして記念撮影する場合、通常のフラッシュ撮影では手前の人物はきれいに写し出されますが、フラッシュ光の届かない背景は黒くつぶれてしまいます。そのような場合にこのモードを使うと、人物も背景もきれいに撮ることができます。

撮影シーン選択ボタンを押して、[夜景ポートレートマーク]の下に▲を表示させます。

- 手ぶれしやすいので、三脚を使用してください。また、撮影される人物が動くと写真もぶれるので、動かないように注意してください。
- なるべく高感度なフィルム（ISO400など）の使用をおすすめします。
- フラッシュが発光禁止[発光禁止マーク]になっているとフラッシュは発光しません。フラッシュモード選択ボタンを押して[発光禁止マーク]以外にしてください。

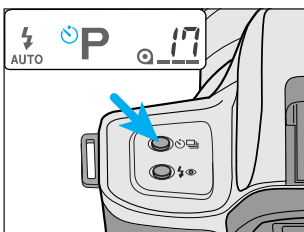
夜景撮影（夜景のみの場合）

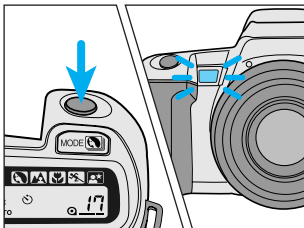
フラッシュ光の届かない夜景をきれいに写します。

1. 撮影シーン選択ボタンを押して、[夜景ポートレートマーク]の下に▲を表示させます。

2. フラッシュモード選択ボタンを押して、ボディ表示部に[発光禁止マーク]を表示させます。

- 手ぶれしやすいので、三脚を使用してください。
- なるべく高感度なフィルム（ISO400など）の使用をおすすめします。
- 明かりの少ない、全体的に暗い夜景だと、写真がうまく仕上がらないことがあります。
- ピントが合いにくいときは、明るい部分でピントを合わせてから撮影してください（22ページ参照）。

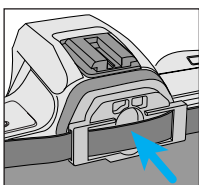
セルフタイマー撮影

シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されます。

1. カメラを三脚などに固定します。

2. セルフタイマー／連続撮影選択ボタンを押して、ボディ表示部に⏱を表示させます。

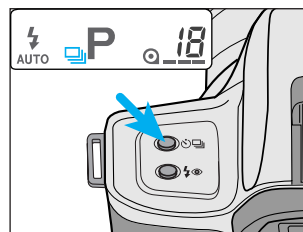
3. 撮りたいものにファインダー内の〔　〕を重ね、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。

4. そのままシャッターボタンを押し込みます。

- セルフタイマー作動中は、カメラ前面のセルフタイマーランプが点滅します。撮影直前にはランプが素早い点滅、そして点灯となり、撮影のタイミングをお知らせします。
- 撮影後、セルフタイマーは解除されます。

- カメラの真正面に立ってシャッターボタンを押さないでください。ピント合わせができなくなります。
- 作動中のセルフタイマーを止めるには、メインスイッチをLOCKにするか、もう一度セルフタイマー／連続撮影選択ボタンを押してください。

カメラの後に明るい光源や反射物などがあるときはファインダーから光が入るのを防ぐため、ストラップに付いているアイピースキャップを付けてください。

取り付け方
ファインダーにキャップを当て、そのまま押し込みます。

連続撮影

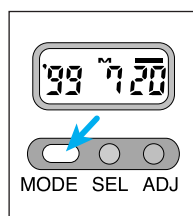
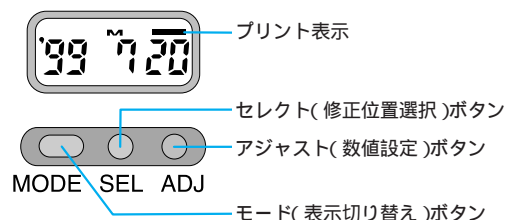
シャッターボタンを押し続けている間、毎秒1コマの速さで連続して撮影されます。

1. セルフタイマー／連続撮影選択ボタンを押して、ボディ表示部に⧉を表示させます。

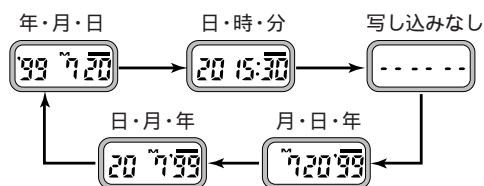
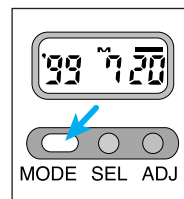
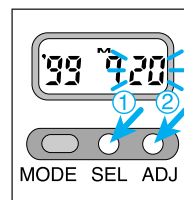
2. シャッターボタンを押し続けます。

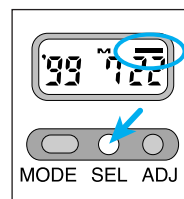
- 押し続けている間、連続してシャッターが切れます。

- 連続撮影を終えるときは、セルフタイマー／連続撮影選択ボタンを押して、ボディ表示部に□を表示させてください。メインスイッチをLOCKにしても□に戻ります。
- フラッシュが発光するときは、フラッシュの充電が完了してから撮影されます。
- シャッターボタンを押し続けている間でも、被写体までの距離が変わったときは、その度ピントを合わせ直します。ピントが合うまではシャッターは切れません。
- AFズームXiレンズ、またはAFパワーズームレンズ使用時は、連続撮影中のズームはできません。

日付・時間を写し込むには

撮影時の日付や時間を写し込むことができます。このカメラには2019年までの日付が記憶されています。パノラマ写真にも写し込むことができます。

モード（表示切り替え）ボタンを押して、写し込みたい表示を選びます。

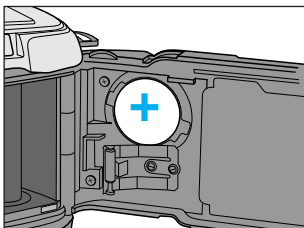
- モードボタンを押すたびに、以下の順で写し込まれる内容が切り替わります。（Mは月表示を表します。）

日付・時間の修正

1. モードボタンを押して、変更したい表示を選びます。

2. セレクトボタンを押して変更したい数字を点滅させ①、アジャストボタンを押して数字を変更します②。

- 修正中は、セレクトボタンを押すたびに、年→月→日、または、時→分→：（コロン）の順に表示が点滅します。
- アジャストボタンを押し続けると、数字は連続して変わります。
- 秒を時報に合わせるには、：を点滅させ、時報に合わせてアジャストボタンを押します。

3. 上記2の操作を繰り返して、変更が終了したら、点滅している数字がなくなり「ー」が点灯するまで、セレクトボタンを何回か押します。

- 写し込み位置に明るい色（空や白い壁など）があると、写し込んだ文字が読みにくくなることがあります。
- 日付写し込み機能は0～50°Cの範囲でご使用ください。それ以外では正常に機能しないことがあります。
- コイン型電池は幼児やお子様の手の届かない場所に置いてください。万一飲み込んだ場合は、ただちに医師にご相談ください。

写し込み用電池の交換

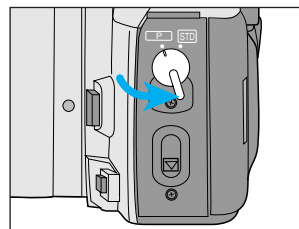
写し込んだ文字や表示部が見えにくくなってきたら、電池を交換してください。
コイン型3VリチウムバッテリーCR2025を1個使用します。

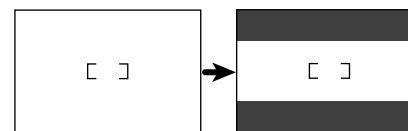
1.裏ぶたを開け、電池室のふたの溝にコインを差し込み、矢印の方向へ回してふたを開けます。

2.古い電池を取り出し、新しい電池の＋側を上にして電池室に入れます。

3.元通りにコインでふたを閉めます。

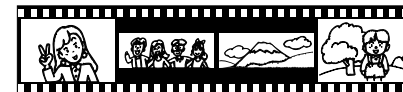
4.日付・時間を修正します。

パノラマ撮影

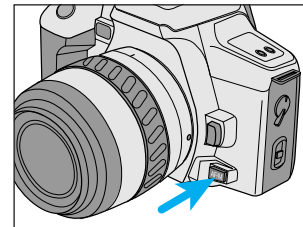
撮影の途中で、標準撮影とパノラマ撮影を切り替えることができます。

1.パノラマ切り替えレバーをパノラマ側（P）にします。

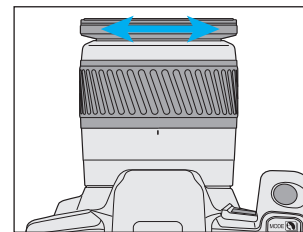
●ファインダーがパノラマ用に切り替わります。

2.構図を決めて撮影します。

●標準撮影に戻すときは、パノラマ切り替えレバーを標準側（STD）にします。
●パノラマ切り替えレバーは止まるまで（レバーの指標■■がきちんと●を指すまで）確実に操作してください。
●パノラマ撮影するときは、画面の周辺に少し余裕を持たせてください。プリントされる範囲が、実際に撮影した画面よりもやや狭くなることがあります。
●広角レンズで撮影すると、パノラマらしさがよりいっそう効果的に表現されます。
●パノラマ撮影したフィルムには、図のように上下に露光されない部分があります。

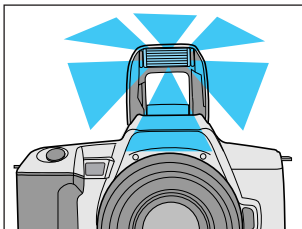
●パノラマ撮影してもフィルムの撮影枚数は変わりません。
●パノラマ写真の一般的なプリントサイズは、89㎜×254㎜（標準）です。
●パノラマ撮影したフィルムを現像・プリントに出すときは、「パノラマ仕上げ」または「パノラマプリント」と指定してください。通常仕上げまたは通常サイズでプリントされると、上下に黒い帯が写し込まれます。

こんな撮影もできます
【中級編】

手動によるピント合わせ（マニュアルフォーカス）

オートフォーカスを使わずに、マニュアル（手動）で自由にピントを合わせることもできます。

1. フォーカスモードボタンを、カチッと音がするまでカメラ側に押し込みます。

● ボディ表示部に M.FOCUS と表示されます。

2. 被写体が最もはっきり見えるように、レンズのフォーカスリングを左右に回します。

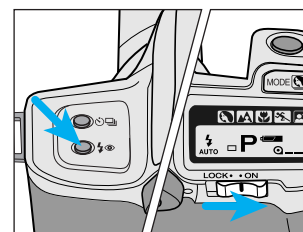
● オートフォーカスでピントが合うような被写体の場合は、ピントが合うと、ファインダー内のフォーカス表示 ● が点灯します。
● もう一度フォーカスモードボタンを押すと、オートフォーカスに戻ります。
● AFズームXiレンズ・AFパワーズームレンズをお使いの場合は、ズームリングをカメラ側に引き、そのまま左右に回します。被写体が最もはっきり見えるところでズームリングから指を離してください。

ピント合わせのためにフラッシュが光ります（AF補助光）

暗いところでフラッシュ撮影をしていると、シャッターボタンを半押ししたときに、フラッシュが光ることがあります。これは、オートフォーカスでピントを合わせやすくするためのAF補助光です。

- AF補助光の届く範囲は、約1～5mです（当社試験条件による）。
- 内蔵フラッシュを発光禁止⚡にしているときは、AF補助光は発光しません。
- 被写体が動いているとき（ファインダー表示(●)が点灯しているとき）は、AF補助光は発光しません。
- プログラムフラッシュを取り付けているときは、プログラムフラッシュのAF補助光が発光します。
- レンズの焦点距離が300㎜以上のときは、AF補助光は発光しないことがあります。AFマクロズーム3×－1×使用時にも、AF補助光は発光しません。

AF補助光を発光させないようにするには

AF補助光の発光を禁止することもできます。フラッシュは発光させたいが半押しでは光らせたくないときに便利です。

1. メインスイッチをLOCKにします。

2. フラッシュモード選択ボタンを押しながら、メインスイッチをONにします。

- ボディ表示部に⚡とOFが表示されます。

- 上記の設定をすると、内蔵フラッシュによるAF補助光は発光しませんが、プログラムフラッシュを取り付けているときは、プログラムフラッシュのAF補助光は発光します。
- AF補助光を発光ありの状態に戻すには、上記の操作を繰り返して、ボディ表示部に⚡とOnを表示させてください。

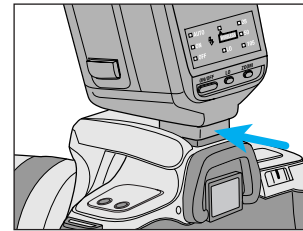
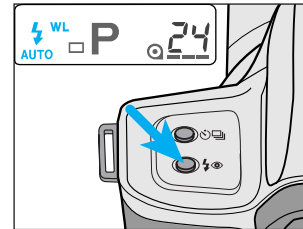
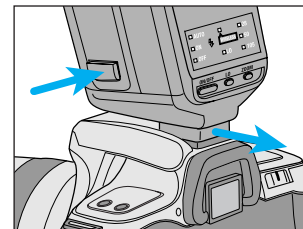
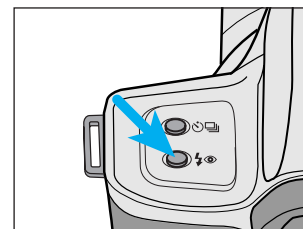
ワイヤレスフラッシュ撮影

ワイヤレスフラッシュ撮影には、別売りのプログラムフラッシュ5400HS、5400xi、3500xiのいずれかが必要です。

フラッシュをカメラに取り付けて撮影

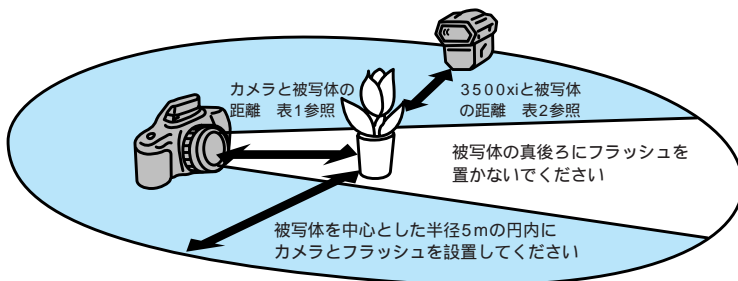
ワイヤレスフラッシュ撮影

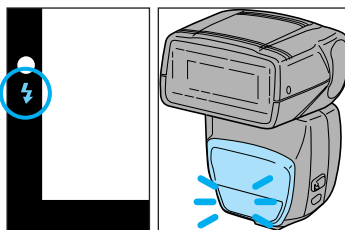
フラッシュをカメラの上に取り付けて撮影すると、写真①のように平面的な写真になることがあります。このようなとき、フラッシュをカメラから取り外して撮影すると、フラッシュの位置を工夫することで、陰影を付けて立体感を出すことができます（写真②）。

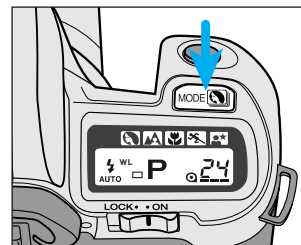
一眼レフカメラでこのような撮影をするときには、カメラとフラッシュをコードで接続しなければならないことが多いのですが、このカメラでは、コードがなくてもこのような撮影ができます。これは、カメラとフラッシュの信号の伝達をコードではなく、フラッシュの光を利用して行なうことができるからです。この撮影をワイヤレス（＝コードのない）フラッシュ撮影といいます。もちろん露出はカメラが自動で適正露出になるよう制御します。

1. フラッシュをカメラに取り付け、カメラの電源をONにします。

2. フラッシュモード選択ボタンを押して、ボディ表示部にWLを表示させます。

3. フラッシュをカメラから取り外します。

4. フラッシュモード選択ボタンを押して、内蔵フラッシュを上げます。

5.カメラとフラッシュの位置を決めます。

このカメラは内蔵フラッシュの発光を信号として5400HSや5400xi、3500xiを発光させます。信号が正しく受け取れるよう以下のことに気を付けてください。

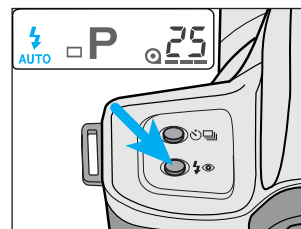
● 室内など暗いところで撮影してください。
● 3500xiご使用時は、下図の青色の部分にフラッシュを設置してください。その他のフラッシュを使われる場合は、各フラッシュの使用説明書をお読みください。

例：AFズーム35-80mm F4-5.6 IIの場合

	カメラと被写体との距離（表1）		3500xiと被写体との距離（表2）	
フィルム感度	広角側	望遠側	広角側	望遠側
ISO 100	1 - 5 m	1 - 5 m	0.7 - 4.5 m	0.5 - 3.2 m
ISO 400	2 - 5 m	1.4 - 5 m	1.4 - 5 m	1 - 5 m

6.カメラの内蔵フラッシュとプログラムフラッシュの充電完了を確認します。

● 内蔵フラッシュは、ファインダー内の⚡が点灯すると充電完了です。
● プログラムフラッシュは、背面の⚡が点灯または点滅し、前面のAF補助光が点滅すると充電完了です。

7.撮影シーン選択ボタンを押して、カメラから離したフラッシュが発光することを確認します（テスト発光）。

● 撮影シーンセレクターを選ぶときは、一度内蔵フラッシュを下げてから選んでください。

8.もう一度両方のフラッシュの充電完了を確認し、シャッターボタンを押し込んで撮影します。

ワイヤレスフラッシュの解除

フラッシュをカメラに取り付け、フラッシュモード選択ボタンを押して、WL以外の表示を選びます。

● フラッシュをカメラに取り付けた状態でカメラのメインスイッチをLOCKにしても、ワイヤレスフラッシュは解除されます。
● カメラとフラッシュを離した状態でそれぞれのメインスイッチを切ると、カメラのワイヤレス設定は解除されますが、フラッシュは解除されません。フラッシュだけでワイヤレス設定を解除するには、以下のようにしてください。

5400HS： 発光モード切り替えボタン（MODE）を押す
5400xi： 通常メニューでWIRELESSボタンを押す
3500xi： いったんOFFにした後、ワイヤレスフラッシュランプが消えるまで発光ON/OFF切り替えボタンを押し続ける

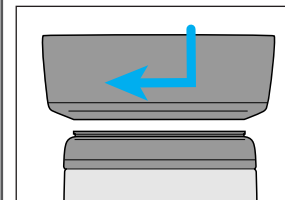
知っておくと便利です

このカメラと組み合わせて使えるアクセサリー

このカメラの機能を活用していただくためには、当社独自のノウハウによりボディ特性に適合するように設計製造管理されているレンズおよびアクセサリーの使用をおすすめします。当社製品以外の付属品をお使いの場合、いかなる事象が生じるかは予想いたしかねます。

レンズ

すべてのαレンズ、α-Xiレンズが使用できます。それ以外のレンズ（Vレンズ、MDレンズ、MCレンズなど）はご使用になれません。

カメラとレンズをセットで購入された方へ

レンズフード

フラッシュを使わずに撮影する場合は、画面外にある光が描写に影響するのを防ぐために、フードの使用をおすすめします。

フードとレンズ先端とを合わせ、時計方向に回して取り付けます。

- 内蔵フラッシュを使って撮影するときは、フラッシュ光がさえぎられることがありますので、レンズフードを外してください。
- 収納するときは逆向けに取り付けてください。

AFズーム35-80mm F4-5.6 II 主な性能

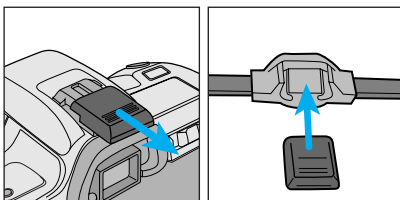
レンズ（群 - 枚）	8 - 8
画角	63°～30°
最近接撮影距離*	0.38 m
最大撮影倍率	0.25 X
最小絞り	F22 - 32
フィルター径	49 mm
補修用性能部品保有年限（生産終了後）	5年
大きさ（最大径 X 長さ）	63 X 66 mm
重量	150 g

*最近接撮影距離とは、フィルム面から被写体までの最短距離を表わします。
本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

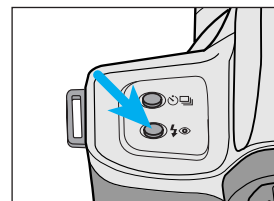
フラッシュ

内蔵フラッシュでは光が届かないような距離でも、より大光量のプログラムフラッシュやベクティスフラッシュを用いれば、美しいフラッシュ撮影ができます。

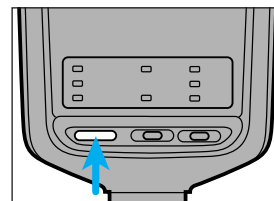
- プログラムフラッシュ5400HS、5400xi、3500xi、2000xi、5200i、3200i、2000i、ベクティスフラッシュSF-1は、そのままご使用になれます。
- AFシリーズ以前のフラッシュ（Xシリーズなど）や、ミノルタ以外の他社製のフラッシュは、このカメラでは使えません。
- プログラムフラッシュ4000AF、2800AF、1800AF、マクロフラッシュ1200AFをご使用になる場合は、以下の点にご注意ください。
  - カメラに取り付ける際には、別売りのフラッシュシューアダプターFS-1100が必要です。
  - フラッシュの電源をONにすると必ず発光します。
  - フラッシュのAF補助光は発光しません。

操作方法

フラッシュを取り付ける場合は、アクセサリーシューキャップを外してください①。また、キャップはストラップに付いているアイピースキャップに収納することができます②。

- フラッシュ表示は内蔵フラッシュと同じです。
- フラッシュ光の届く範囲については、フラッシュの使用説明書をご覧ください。
- 赤目軽減発光はできません（内蔵フラッシュ以外ではそれほど目が赤く写らないため）。

カメラ側、フラッシュ側のどちらでも操作できます。

カメラ側で操作する場合

カメラのフラッシュモード選択ボタンを押します。自動発光⚡AUTO、強制発光 ⚡ 、発光禁止(⚡)、ワイヤレスフラッシュWL*のいずれか1つが選択できます。

* ワイヤレスフラッシュ撮影については48ページ参照のこと

3500xi場合

フラッシュ側で操作する場合

フラッシュのON/OFFボタンを押します。押した後、シャッターボタンを半押しすると、カメラのボディ表示部に現在のモードが表示されます。自動発光⚡AUTO と発光禁止(⚡)しか選択できませんので、フラッシュを必ず発光させたいとき（強制発光 ⚡ ）はカメラ側で操作を行ってください。

その他

以下のものは、このカメラと組み合わせての使用はできません。

- アングルファインダー
- コントロールグリップCG-1000
- マグニファイヤー
- データレシーバーDR-1000

- ファインダー内の像がはっきりと見えないときは、別売りの視度調整アタッチメント1000を取り付けて視度を調整することができます。近視用4種類、遠視用5種類があります。

この使用説明書は1999年6月に作成されたものです。それ以降に発売されたアクセサリーとの組み合わせは、本書裏表紙に記載の当社サービスセンター・サービスステーションにお問い合わせください。

あれっ？と思ったときは

故障かな？と思ったときは、次のことを調べてみてください。それでも調子が悪いときや分からないときは、裏表紙記載の当社サービスセンター・サービスステーションにお問い合わせください。

症状	点検項目	処置	ページ
ピントが合わない。	ボディ表示部に M.FOCUS が表示されていませんか。	フォーカスモードボタンを押してオートフォーカスにしてください。	45
	オートフォーカスの苦手な被写体（21ページ参照）を撮ろうとしていませんか。	フォーカスロック、または手動によるピント合わせを行なってください。	22, 45
	被写体に近づきすぎていませんか。	レンズの最近接撮影距離より離れて撮影してください。（最近接撮影距離については、レンズの使用説明書をご覧ください。）	–
シャッターが切れない。	ピントは合っていましたか。	ピントが合わないとシャッターは切れません。	–
	カメラを天体望遠鏡などに取り付けていませんか。	天体望遠鏡などにカメラを取り付けた場合は、フィルムが入っているとシャッターが切れません。裏表紙記載の当社サービスセンター・サービスステーションにお問い合わせください。	–
暗いところでシャッターボタンを半押しすると、フラッシュが発光する。	暗いところでもピントが合うようにするためのフラッシュ（AF補助光）です。	フラッシュを発光禁止にすると、AF補助光も発光しません。また、AF補助光だけを発光しないようにすることもできます。	46, 47
写真がぶれてしまう。	暗いところでフラッシュを発光させずに撮影しませんでしたか。	フラッシュまたは三脚の使用をおすすめします。高感度フィルムを使うと手ぶれが少なくなります。望遠レンズを使ったり、フラッシュを発光させずに撮影すると、手ぶれしやすくなります。	–
フラッシュ撮影したものが全体的に暗くなる。	フラッシュ光の届く範囲で撮影しましたか。	フラッシュ光の届く範囲で撮影してください。別売りのフラッシュをご使用のときは、フラッシュの使用説明書をご覧ください。	23
フラッシュ撮影したものの下部が暗くなる。	レンズフードを付けたまま撮影しませんでしたか。	カメラの内蔵フラッシュで撮影するときは、レンズフードを外してください。	–
ボディ表示部にErが表示される、またはカメラが正常に作動しない。		電池を一度取り出し、入れ直してください。それでも直らない場合、また何度も繰り返して表示される場合は、裏表紙記載の当社サービスセンター・サービスステーションにお問い合わせください。	–

取り扱い上の注意

電池について

- 電池の性能は低温になるほど低下します。寒いところでご使用になるときは、カメラを保温しながら撮影してください。海外旅行や寒いところでは、予備の電池をご用意されることをおすすめします。なお、低温のために性能が低下した電池でも、常温に戻せば性能は回復します。
- 新品電池を初めてお使いのとき、それまでその電池が保管されていた状況によっては、メインスイッチをONにすると が点滅することがあります。この場合はメインスイッチを何度か切ったり入れたりすると、電池容量が回復します。

使用温度について

- このカメラの使用温度範囲は－20℃～50℃です。
- 直射日光下の車内など極度の高温下や、湿度の高いところにカメラを放置しないでください。
- 液晶表示は、低温下で反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻せば正常に作動します。
- カメラに急激な温度変化を与えると内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から温かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋に入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度になじませてからカメラを取り出してください。

その他

- カメラは精密機械ですので、取り扱いには注意してください。特に、シャッター幕、ミラー、レンズの信号接点などに傷がつかないように気を付けてください。
- カメラに強い衝撃を与えないでください。
- 飛行機をご利用の際は、未現像フィルムやフィルムの入ったカメラは、機内持ち込みされることをおすすめします。預け入れ荷物に入れると、場合によってはX線検査でフィルムが感光する恐れがあります。
- このカメラは防水設計にはなっていません。海辺等で使用されるときは、水や砂がかからないよう特に注意してください。水、砂、ホコリ、塩分等がカメラに残っていると、故障の原因になります。

手入れと保管の仕方

手入れのしかた

- カメラボディやレンズの外側を清掃するときは、柔らかいきれいな布で軽く拭いてください。砂がついたときは、こするとカメラに傷を付けますので、ブロアーで軽く吹き飛ばしてください。
- レンズ面を清掃するときは、ブロアブラシでホコリ等を取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーを染み込ませ、レンズの中央から円を描くようにして軽く拭いてください。レンズクリーナーを直接レンズ面にかけることはお避けください。
- シャッター幕、ミラーなど、カメラの内部に触れないでください。ミラーのほこりは露出には影響しませんが、オートフォーカスには影響を及ぼす恐れがあるため、ミラーおよびその周辺のほこりを取る場合は、ブロアーでほこりを吹き飛ばしてください。また、内部をボンベタイプのブロアーで吹かないでください。故障の原因になります。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。
- レンズ面に直接指で触れないでください。

保管のしかた

- 使用しないときは、必ずレンズキャップまたはボディキャップを付けてください。
- 長期間使用しないときは、電池を抜いてください。
- 保管するときは、涼しく、乾燥していて、風通しのよい、ホコリや化学薬品のないところに保管してください。長期間の保存には、密閉した容器に乾燥剤と一緒に入れるとより安全です。
- 防虫剤の入ったタンスなどに入れないでください。
- 保管中も時々電源を入れて、空シャッターを切るなどの操作をしてください。また、ご使用前には整備点検されることをおすすめします。

海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは

- 前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてからご使用ください。また、予備の電池を携帯することをおすすめします。
- 万一、このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

アフターサービスについて

- 本製品の補修用性能部品は、生産終了後5年間を目安に保有しています。
- アフターサービスについては、「アフターサービスのご案内」に詳しく記載していますので、そちらをご覧ください。

主な性能

オートフォーカス	方式：TTL位相差検出方式　検出素子：CCD1ラインセンサー　検出範囲：EV－1～18（ISO100）　AF制御切り替え　動体予測フォーカス制御
AF補助光	内蔵フラッシュによる補助光　低輝度かつ低コントラスト時自動発光　作動距離範囲：約1～5m　プログラムフラッシュ装着時、フラッシュの内蔵AF補助光に自動切り替え
測光方式	TTL開放2分割測光　受光素子：2分割SPC（シリコンフォトセル）　フラッシュ光調光用SPC　測光範囲：EV4～20（ISO100、F1.4レンズ使用時）
シャッター	電子制御式縦走りフォーカルプレーンシャッター　シャッター速度：1/2000～30秒　フラッシュ同調最高速度：1/90秒　ワイヤレスフラッシュ撮影時は1/45秒
内蔵フラッシュ	ガイドナンバー：12（ISO100・m）　照射角：焦点距離28mm　充電時間：約3秒（カメラと電源を共有）　自動ポップアップ、自動発光（強制発光、発光禁止可）　赤目軽減プリ発光選択可能
ファインダー	ルーフミラー式一眼レフレックス方式　視野率：90%×90%　倍率：0.75倍（50mmレンズ、∞位置）　視度：－1ディオプトリー　アイポイント：16mm（接眼枠より13mm）
フィルム給送	オートローディング（1コマ目まで自動送り）　1コマ撮影／連続撮影（1コマ／秒）　セルフタイマー切り替え可能　自動巻き戻し　途中巻き戻し可能　24枚撮りフィルム使用時の巻き戻し時間：約20秒
フィルム感度	DXコード付きフィルム使用時は自動設定（ISO25～5000、1/3ステップ）　DXコードの付いていないフィルム使用時は前回のフィルム感度を自動設定　フラッシュ撮影時はISO25～1000のフィルムを推奨

撮影可能本数

試験条件：AFズーム28-80mm F3.5-5.6 Ⅱ・24枚撮りフィルム・新品電池使用、1ヵ月に2本撮影

● 標準撮影時（1コマごとにレンズを無限遠から2mまで3回駆動させ、シャッターボタン半押しで10秒保持後撮影、その他撮影準備を含む）

温度	20℃	－10℃
フラッシュ使用しない	約40本	約30本
フラッシュ50%使用	約17本	約13本
フラッシュ100%使用	約11本	約8本

● カメラの操作回数が少ない場合（1コマごとにレンズを無限遠から2mまで1回駆動させ、シャッターボタン半押しで5秒保持後撮影、その他撮影準備を含む）

温度	20℃	－10℃
フラッシュ使用しない	約65本	約50本
フラッシュ50%使用	約23本	約18本
フラッシュ100%使用	約14本	約10本

● カメラの使い方により撮影可能本数は変わります。
● 電池を長持ちさせるために、撮影しないときはメインスイッチをLOCKにしてください。
● 36枚撮りフィルムの場合は、上記の2／3程度の本数になります。

大きさ　135（幅）×90（高さ）×61（奥行き）mm

重さ　355g（電池別、クォーツデート用電池含む）

本書に記載の性能は当社試験条件によります。
本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

ボディ底面のこのマーク（CEマーク）は、本製品が電気安全・電波障害に関するEU（欧州連合）の要求事項に適合していることを示すものです。CEとはフランス語のConformité Européenne（ヨーロッパ認定）の頭文字です。

ミノルタ株式会社
ミノルタ販売株式会社

フォトサポートセンター

弊社製品のカメラ、交換レンズ、デジタルカメラ、フィルムスキャナ、露出計など写真や画像に関わる製品の機能、使い方、撮影方法などのお問い合わせをお受けいたします。

ナビダイヤル　0570-007111
ナビダイヤルは、お客様が日本全国どこからかけても市内通話料金で通話していただけるシステムです。

TEL　03-3356-9111
携帯電話・PHS等をご使用の場合はこちらをご利用ください。

FAX　03-3356-6303

受付時間　10:00〜12:00、13:00〜17:00（土・日・祝日定休）

サービスセンター・サービスステーション

製品の故障や修理についてのご相談をお受けいたします。

サービスセンター

新　宿	〒160-0022	東京都新宿区新宿3-17-5（カワセビル3階）	TEL（03）3356-6281㈹
大　阪	〒530-0001	大阪市北区梅田1-11（大阪駅前第4ビル7階）	TEL（06）6341-6501㈹

サービスステーション

札　幌	〒060-0807	札幌市北区北7条西1-1-5（丸増ビルNo.18）	TEL（011）737-1212㈹
仙　台	〒980-0802	仙台市青葉区二日町14-15（アミ・グランデ二日町ビル3階）	TEL（022）261-3431㈹
横　浜	〒231-0015	横浜市中区尾上町4-47（大和横浜ビル3階）	TEL（045）663-1445㈹
名古屋	〒460-0002	名古屋市中区丸の内1-4-12（アレックスビル4階）	TEL（052）239-1251㈹
広　島	〒730-0041	広島市中区小町3-25（住金物産広島ビル1階）	TEL（082）247-3978㈹
高　松	〒760-0078	高松市今里町1-17-20	TEL（087）835-5568㈹
福　岡	〒812-0013	福岡市博多区博多駅東3-4-10（コマバビル1階）	TEL（092）441-6121㈹

9223-2156-61　MM-B008